

認め得べきに非ず、(ハ)兩者の所爲に關して記さるゝ所は、只だ聖教を宣傳せし一事の外は相合する所なし、而して此の點に就ても、一は之を唐に傳へたるを以て名高く、他は重に蕃夷の諸國に傳へて其の聲望を得たるが如し、されば此の二人者の同一は到底之を認むる能はず、只だ略ぼ同時代、同一國より、類似の漢字を以て表はされたる二人の入唐せし事實を知り得るに止るのみ。

阿羅憾なる文字によりて寫されたる原名の何なりしかは、今明らかに知るべきなし、唐代音譯の例に就きて考ふるに、阿羅漢の三字によりて梵語の *arhan* 或は *arhat* を寫せるは、能く人の知る所なり、漢の音は唐韻に呼肝切と見え、集韻虛肝切、韻會正韻虛汗切と記し、憾は廣韻、集韻、韻會、正韻並胡紺切と見ゆれば (康熙字典) 一は *han*

一は *han* にして、兩者略ぼ同一の音なり、而して阿蘆漢、阿羅訶、羅漢の字によりても *arhat* を寫すよりして考ふれば阿羅憾の三字も亦た此の語を寫したるものかとも思はるれど、此の如きは當時の波斯人、殊に余輩の考ふるが如き宗教を奉ぜし人の名としては解す可らず、或はこれ *abraham* の音を寫したるものに非るなきか、語頭の *a* 音を省くこと蒲囉咩 (= *abraham*: *Hirth. Chau ju-kua. p. 144*) の如くならずして、却りて次の *b* 音を省きたるものなれども、然も漢字譯音の法則は必ずしも一定せるに非ず、彼の景教碑に見ゆる羅含の如き、また明代河南開封府に建設せられたる猶太教の碑文中の阿無羅漢及び羅漢等が等しく *Abraham* を寫したりと思はるゝに考がふれば、此の如き宗教的人物の名を漢字を以て表はすに當り、特に佛教徒の間に重んぜらるゝ阿羅漢に似たる阿羅憾の三字を用ゐたりと見るも、必らずしも不當には非るべきか。

二 差充拂林國諸蕃招慰大使、并於拂林西堺立碑、峩峩尙在。